

「土砂災害と向き合う」

徳島県 神山町立神山中学校 1年 なかみなみ 中南 じん 仁

近頃、「災害列島」という言葉をよく聞きます。東京五輪の招致が決まった時には、日本の自然災害に対する心配や不安の声が世界中から多く聞かれたそうです。日本は小さな国土ですが、大きな災害がよく起きているように思います。ここ数年で特に多いと思うのが、大雨による土砂災害です。

土砂災害には、がけ崩れ、土石流、地すべりなどがあり、雨水を含んだ土砂の移動によって被害を受けることをいいます。土砂災害の原因には、梅雨の長雨や大雪、台風などがありますが、特に注意しなければならないのが、線状降水帯による集中豪雨です。昨年7月の九州豪雨や2018年の西日本豪雨などで多くの地域に大変な被害をもたらした原因が、これだとされています。今年7月には、静岡県熱海市で大規模な土石流が発生し、多くの命が奪われました。発生当時の映像を何度もニュースで見ましたが、家や車などがあっという間に土砂に流されていく姿は、東日本大震災の時の津波の映像と同じでした。土砂災害は「山津波」と言われているそうですが、本当にそうだなと感じました。

私が住む徳島県神山町は、吉野川の支流、鮎喰川の上流域にある町です。四国山脈の東部に位置し、全面積の約83%が山地であり、その中央を鮎喰川が流れるとても美しい渓谷として知られています。人工林と呼ばれる植林された杉やヒノキが多くみられますが、手つかずの自然が見せてくれる四季の景色が私は大好きです。私の家も鮎喰川沿いの平地からは少し上った山の集落にあります。山の斜面に家が点在し、その中心を鮎喰川につながる谷川が流れています。棚田がとてもきれいな集落で、町外からもたくさんの方が訪れる自然たっぷりのところで暮らしています。

私は小学校4年生の時、社会科の授業で防災について勉強しました。その時に、神山町土砂災害ハザードマップを初めて見て、とても驚いたことを今でも覚えています。なぜかという、町のほとんどがハザードマップの土砂災害警戒区域や危険区域に染められていたからです。そして、私の家や集落も赤く染められた急傾斜の崩落警戒区域、地すべり危険箇所地域の中に入っていました。私が毎日歩く通学路にも危険な場所が多くあることを知り、とても怖くなりました。それから、大雨やその後の登下校時は、山の斜面のそばを通るときに小石が落ちてきていないか、山からの水はにごっていないかなど晴れの時との違いを見ながら歩くようになりました。そしてそれを登下校班の下級生にも教えながら歩くようにしました。私が見えるところでは、今までに大きな土砂災害はありませんが、町の奥の山の方では、大雨が降るたびに土砂崩れが起き、国道が通行止めになり、集落が孤立することがほぼ毎年起きているということを家族から聞きました。それを聞いて、私の家の窓からの景色を見たときに、土砂災害は他人事ではないと考えさせられました。

最近は大規模災害が増えたことで、テレビや携帯電話ではすぐにアラートが流れるようになりました。今年6月からは、「顕著な大雨に関する情報」として線状降水帯発生情報が発表されることになりました。記録的短時間大雨情報、土砂災害警戒情報など速報で流れ、どの地域でどのレベルの危険度かを示されるようになったことは、とてもすばらしいと思います。しかし、この情報を見てすぐに避難行動をとれるかということは別だと思っています。テレビでも被害にあった人が、「逃げようと思ったけれど間に合わなかった。」と証言していることがよくあります。私も同じですが、きっと過去の大規模災害やアラートが、自分にも起こることと考えていなかったからだと思います。

私は家族で町から送られてきたハザードマップを確認し、土砂災害が起きたときなどについて話し合うことをしています。例えば、地域の避難所の場所を確認したり、登下校中に土砂崩れが起きたらどこに行くかなどを決めたりしています。また集落が孤立してしまった時のために、飲料水や非常食、薪やカセットコンロ、ペットのエサなどをたやさないようにし

令和3年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

ています。しかし、先日の熱海の土石流のように家が流されてしまっは、その備えも使えないとあらためて考えさせられました。

日本のいろいろな地域で起きている土砂災害は決してよその地域のことでありません。天気図が少しずれていたら、自分が被災していたかもしれないのです。まずは、自分が住む地域のことを知ることが重要です。そして、自分だけでなく大切な人たちの命を守るために何ができるのか考えないといけません。私は、山地災害を防いだり、被害を少なくしたりするために中学生としてできることをしっかりと考えていきたいと思います。